



—北アフリカ地域ニュース—

リビア情勢 (1) : カッザーフィー大佐が死亡 (修正・追加版)

10月20日、リビアのカッザーフィー大佐は、シルテ近郊で死亡した。同大佐が殺害された状況には、まだ不明な点が多く、生きて国民評議会派兵士に拘束される映像、その後殺害された映像などが流布している。国民評議会のアブドルジャリール議長は、カッザーフィー大佐の死亡を確認した。カッザーフィー大佐の次男サイフルイスラムは、シルテ近郊で負傷して拘束され、四男ムウタスィムは死亡したと報道されている。カッザーフィー大佐の死亡の経緯には不明な点があるとして、アムネスティ・インターネショナルが調査を要請している。

国民評議会派は、10月初旬から、カッザーフィー派に残された拠点であるバニ・ワリードとシルテへの攻撃を開始していた。バニ・ワリードは17日までに国民評議会派に占拠された。シルテでは、国民評議会派部隊は18日までに中心部近くまで迫り、20日に中心部を占拠した。報道では、シルテから逃亡した車列があり、NATO軍機が空爆で車列を止め、その後戦闘になった。カッザーフィー大佐らは、徒歩で逃亡したようだ。

カッザーフィー大佐の死去、シルテ陥落を受け、国民評議会は、リビア解放を宣言する予定である。同宣言後、暫定政権創を創設する段取りになっている。解放宣言は、当初、21日に行われる予定と報道されたが、その後2度延期され、23日に行われる予定。

8月末のトリポリ陥落で、軍事的な抗争には決着がついていたが、今回のシルテ陥落とカッザーフィー大佐の死亡により、政治的にも内戦の決着がついたことになる。

(中東調査会 主席研究員 中島 勇)